

平成20(2008)年度 兵庫県立淡路視覚特別支援学校 学校評価シート(自己評価)

<p>学校教育目標</p> <p>視覚障害等に基づく種々の困難を改善・克服し、健康で明るく、こころ豊かに生きる児童生徒を育成する。ライフサイクルを見通した教育と、自己実現を目指す教育の中で、社会の一員として可能な限り主体的に生きる力を育成する。</p>
--

<p>本年度の重点目標</p> <p>1 過去の国家試験分析を行い、合格に向けての支援を行う。</p> <p>2 教職員が、特別支援教育への変化に対応できるよう校内研修を積極的に行い期待される資質と能力の向上に努める。</p> <p>3 特別支援教育における地域のセンターとしての役割を果たす。</p> <p>4 情報管理についての知識を得て、その徹底を図る。</p>
--

評価基準	A	よくできた。十分達成している。 目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される。
	B	できた。おおむね達成している。 目標に対して共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある。
	C	あまりできなかった。あまり達成されていない。 目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分でなく、全体的に停滞している。
	D	できなかった。ほとんど達成されていない。 現状に満足して、問題意識がない。問題意識はあっても手つかずの状態である。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価欄				コメント (よかった点・悪かった点など)
				A	B	C	D	
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域の人々への広報活動と情報発信	・ホームページや学校だより等により情報を発信する。	3	1	3		ホームページの更新があまりできていない。学校だよりも年2回しか発行していない。今年度末の閉校が決まっているため、視覚として積極的な啓発活動ができなかった。
		2 学校評議員制度等の活用	・学校評議員会での意見を現場に反映させる。	1	5	1		理療活動の対象を1つ増やしたことや、地域を対象に定期的な点字指導を行うなど、学校評議員のアドバイスをいかせた。
		3 学校行事や理療活動等による地域との交流	・臨床実習や理療活動等で地域との交流を図る。	6	1			本年度は4回行い、参加された方々に喜んでもらえたと思う。
		4 地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	・地域や警察・消防の協力を得て防災や安全に関する訓練や研修会を実施する。	4	3			警察や消防署の方と一緒に訓練ができたことはよかったが、合同で行った職員の体制や意識が不足しているような意見がアンケートに見られた。
	進路指導	5 進路指導体制の充実	・生徒の学力分析のもと、組織的・計画的に、模試や補習等を実施する。	5	2			実力テストなどをともに補習内容やそれに対応した教材を作成し、国家試験合格に向け進めている。
		6 職業観・勤労観の育成	・臨床実習・就業体験活動を通して、技能の向上と職業観・勤労観の育成を図る。	5	2			就業体験活動は例年より1回多く行った。
	教職員の資質向上	7 特別支援教育への変化に対応する意識の育成	・研修会等を通して、特別支援教育についての情報の共有化を図る。		3	3	1	十分に研修会等をもつことができなかった。
		8 実践的指導力と専門性の向上	・国家試験分析、校内模試の作成や問題検討会を通して、専門性の向上を図る。	6	1			過去の国家試験分析を行い、理療科教員としての専門性を高めた。
	危機管理体制の整備	9 特別支援教育理解のための計画的な研修の実施	・夏季休業中を中心に特別支援教育理解に向けた校内研修会を計画的に実施する。		3	4		自己研修としてはできていたが、全体としてはあまりできていない。
		10 実践的な研修と訓練を通じた協働体制の確立	・危機管理マニュアルをもとに、状況に応じた個々の動きを検討しながら、避難訓練等を実施する。	2	5			聴覚と合同で防災マニュアルの作成はできているが、認識できていない部分が見られる。もっと意識付けできるものを作る必要がある。
		11 施設設備の安全対策	・月1回安全点検を実施する。	5	2			毎月の初めに安全点検を行うことができた。
教育課程	個に応じた学習指導の徹底	12 生徒の学力に応じた指導方法・体制の工夫	・校内模試等の結果を組織的に検討するなど教師間の連携を密にして、生徒個々に適した指導を行う。	5	2			理療科会などを通して情報交換を行い、生徒に合わせた指導が行えた。
		13 国家試験合格に向けた指導の充実	・過去の国家試験を分析し、授業や補習に生かす。	5	2			国家試験だけでなく理教連、中国模試等も参考に分析した。
	臨床実習の充実	14 技能及びコミュニケーション能力の向上	・理療実技修得検査を実施・分析し、実技授業に生かす。	5	2			管理職等の応援も得て取り組んだ。
課題教育	防災・安全教育	15 教員の防災・安全教育に係る指導力と実践力の向上	・AED実技を含む救急救命等の研修会により、教職員の安全に対する意識と技能を高める。	5	1	1		AED研修をはじめ、防災についての実践的な訓練ができた。
		人権教育	16 人権教育推進体制への取り組み	・人権教育推進委員会を中心に、人権研修会の実施内容などを計画・実行する。	3	4		
	17 セクシャルハラスメント防止の意識づけ		・臨床実習等に際して、セクハラ防止に対する意識を高める。	3	4			治療家として基本的な接客方法を教職員・生徒ともに十分注意している。
	YU・らいふ・サポート事業	18 社会性や積極性を育てる体験活動の展望	・理療活動を通して地域の人々と接し、技術の向上を図るとともに、挨拶等の接遇や丁寧な説明する姿勢を身につける。	5	2			事業実施後のアンケートから好回答を得ることができたことから、目的が達成されたのではないかと。
		19 地域の協力を得た連携の推進	・理療や視覚障害教育への関心を高め、積極的な参加を促す。	3	4			理療活動や健康セミナーを通して「理療」に関する理解は深まったと思う。
		地域のセンターとしての役割を果たす	20 校外研修等への講師派遣	・要請に応じて、校外の研修会等に講師を派遣する。	5	1	1	
	21 教育相談活動の実施		・学校の専門性を活かしながら、適切な教育相談を誠意をもって行う。	4	3			相談には応じているが、障害の重複化や本校閉校により具体的な方向を示しにくい。今後、各教職員の専門性をあげ、数人に負担がかからない体制をつくる必要がある。
健康教育	22 学校給食を通じた食に関する指導	・食の大切さを認識させ、健康を保持・増進する態度を育てる。	3	3		1	高等部では給食指導は行ってないため、授業内で医学的な観点から学習を進めている。	
情報管理	23 情報セキュリティの能力向上	・情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるようにする。	3	3		1	職員室内はウイルス対策ソフトなどを使用してPC保護をしたり、各種データの管理体制はできていると思うが、一部でウイルス対策ソフトを購入せずネットワークを使用していると聞いている。	